

01 電源供給方法の改善

以前開発した、ドライブレコーダーはACC電源より直接電力を供給する方法が主体でした。スコピオは常時電源+ACC電源で供給することで、ACC OFF後の録画画像を最後まで保存できるように3秒~5秒のタイムラグを持たせました。内蔵リチウム電池だと寿命があり、長く使用していただく場合、電池交換が必要となります。これは過去に開発した商品で最後の場面がリチウム電池の寿命切れにより録画できなくて大切なお客様にご迷惑をおかけした経験からの結論です。

02 前後の録画画像を別々に管理

スコピオは前後カメラの録画方式を各々、個別のPSB・CPUで管理することで、システムの負荷を軽減し安定した録画映像を保存できるようにしました。前後カメラを1つのシステムで管理すれば負荷が大きくなり、不具合の原因にもなります。また不具合の際は前後共、同時に異常をきたします。折角のツーリングの思い出を大切にしたいとの思いからの発想です。

03 明るいレンズを使用

スコピオは夜間やトンネル内で事故を想定し、高画質の画像が録画できるようF2.0のレンズを採用しました。あわせて、高性能のICチップを搭載し、画像の転送時の画質劣化を防ぐことにも役立っています。



04 本体の熱対策

精密機器のドライブレコーダーに熱は大敵、スコピオの本体は内部をコーティングタイプの防水防塵処理を施し本体カバーにスリットを設けることで排熱処理をしています。熱対策を考えた結果でした。



05 マイク機能

マイクの録音機能も風切音の抑止等を考え、風切音が拾いづらい構造にしました。音も大切な機能と考えた結果です。



06 WiFi機能が付いていない理由

過去に開発したドライブレコーダーにはWiFi装着が主流でしたが、実際使用して見ると、直接記録媒体を再生できる方が、バッテリーにも優しく、簡易で使いやすかったです。



カタログや数値上の規格では表れない思い

アストロスコピオの開発者は、過去に色々なドライブレコーダーの開発に携わってきました。過去の経験で「ここは改善すべき」と思ったことを形にしました。

07 カメラの小型化

カメラを小型化することで車体取付時に目立たなくしました。外観も円筒形にすることで、取付場所による正方向の録画をすることが容易にできます。主流の円筒形の外観はありますが、内部構造とレンズで差別化を図りました。



08 汎用性を持たせたカメラ台座

カメラ固定部分は一般的なアクションカムの台座が使用できるよう共通の形状になっています。取付の場所に幅を持たせることや、カメラの盗難防止策としても考えた結果です。



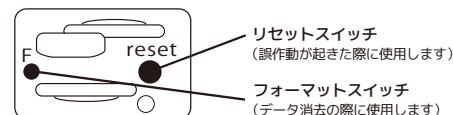
09 衝撃センサーがついていない理由

オートバイの場合、駐車時や走行時の振動が多くGセンサーを高めに設定しても保存録画が自然と増え録画の動作領域が減り、必要な時に誤作動で録画できないことがあります。万一の場合を考え32GBのマイクロSDカードを同梱することで約4時間~5時間の録画領域を確保しています。



10 本体のエラー対策

スコピオは本体の不具合をライダーに知らせる為、コントロールボックスのインジケータで作動状況をライダーに告知します。例えば車両のキーのON/OFFによるエラーの場合は本体のリセットスイッチで本体の機能の復帰が可能です。あわせて、フォーマットスイッチも装着しています。



11 補修パーツもサポート

長く使用して欲しいとの思いから、カメラレンズのカバー等の補修パーツも供給できるようにしています。アストロスコピオはパソコンと本体を接続することで、音声・画質等の変更がお客様自身で出来ます。



12 画像の再生方法

スマートフォンやパソコンにマイクロSDカードを挿すことで通常の動画再生ソフトで再生できます。ホームページからダウンロードしたソフトでGPS等の同時再生も出来ます。画像編集ソフトを使えば2画面編集等が可能です。

